

チケット料金

前売	当日	パスポート割引	高校生以下
1,500円	2,000円	1,700円	無料

チケットのご購入方法

■前売券

□オンラインで購入:

瀬戸内国際芸術祭公式アプリをダウンロードし、アプリより購入

□窓口で購入:高松港総合案内所、宇野港総合案内所 他にて販売

■当日券

当日券は会場でのみ販売します。

・詳細は瀬戸内国際芸術祭公式ウェブサイト参照

イベントの詳細



交通アクセス

ユープラザうたづ ハーモニーホール (香川県綾歌郡宇多津町浜六番丁88番地)

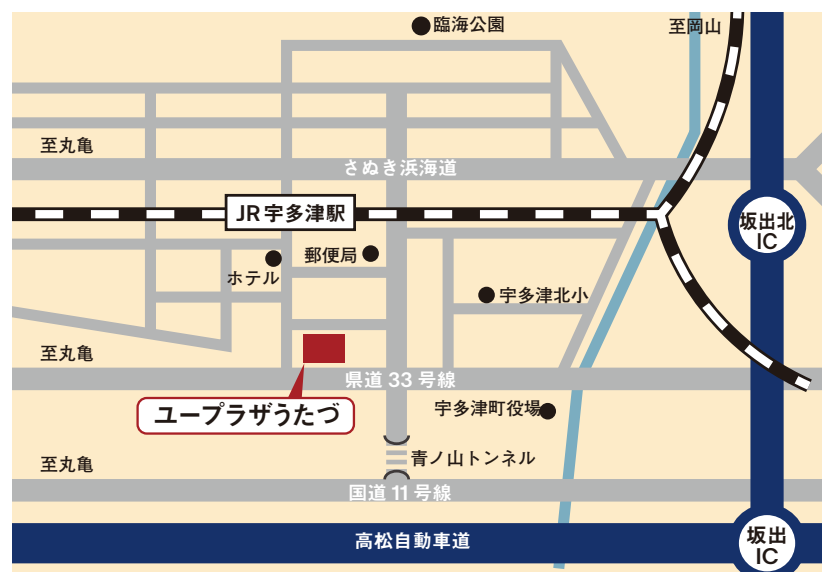
アクセス| JR 宇多津駅 南口より徒歩5分

〈お車でお越しの方〉

・岡山方面～瀬戸中央自動車道～坂出北ICを下りる

・四国内～高松自動車道～坂出ICを下りる (各ICより約10分)

※会場周辺の駐車場の数に限りがあります。なるべく公共交通機関でお越しいただきますよう、ご協力お願いします。



お問合せ

瀬戸内国際芸術祭総合案内所

Tel:087-813-2244

メール: info@setouchi-artfest.jp

瀬戸内国際芸術祭2025

Setouchi Triennale 2025

香川県綾歌郡宇多津町浜六番丁88番地

会場
ユープラザうたづ
ハーモニーホール

日時
2025年
10月5日(日)
11時～17時

塩にえんがある人集まれ!



Salt Summit 2025

塩でつながる日本列島

プログラム

第一部 11時～12時30分

塩と食文化

第二部 13時15分～14時30分

塩の道～宮本常一と塩～

第三部 15時～17時

塩と生きる人々

主催：瀬戸内国際芸術祭実行委員会

協力



ナイカイ塩業株式会社

UTAZU TOWN
宇多津町

玉野市

主催：瀬戸内国際芸術祭実行委員会



塩でつながる日本列島

塩サミットは瀬戸内国際芸術祭2025宇多津エリアで開催する、塩に縁のある人々が集まり、塩について語り尽くす大集会です。塩の研究者をはじめ、塩業関係者、さらに塩が名前につく人々や、塩尻、塩竈のように塩がつく地名の人々を招き、あらゆる角度から「塩」について語る、世界初の試みです。

香川県 宇多津町

塩サミットの会場となるのは香川県宇多津町。技術者久米栄左衛門（通賢）が設計図を作成し、かつては日本一の塩の町としてその名を轟かせた町です。1972年の塩田廃止後、跡地は新宇多津都市として開発が進みました。現在、宇多津町は香川県の自治体のなかで人口密度・人口増加率がともにもっとも高いエリアとなっています。塩田廃止から50年以上が過ぎた今、塩について考えることは、地域資源を見直すだけでなく、人と人の新たな繋がりを築く貴重な機会となるでしょう。



Photo: Shintaro Miyawaki

第一部 11:00～12:30 塩と食文化

塩は調味料以外にも、「発酵を助ける」「脱水」「防腐」「グルテンの形成」など、調理において様々な役割を果たしています。塩が持つ「防腐の力」を生かし、人類は食材を保存することができるようになり、食材の交易が生まれました。日本の食を代表する「醤油」「味噌」などの発酵調味料では、「塩」が雑菌の働きを抑え、微生物が働きやすい環境を作っています。「塩」がいかに、食を豊かに発展させてきたのかを語り合います。



ゲスト **神崎宣武**（民俗学者）
高梨浩樹（たばこと塩の博物館 主任学芸員）

第二部 13:15～14:30 塩の道～宮本常一と塩～

自らの足で日本列島を隅々まで歩き、人々から膨大な話を聞いた民俗学の巨人「宮本常一」。彼は塩の文化を民俗学の視点から捉え、製塩技術や塩にまつわる生活文化を研究しました。彼が残した写真や記録を振り返るとともに、日本に脈々と走っていた「塩の道」の姿を明らかにします。



ゲスト **神崎宣武**（民俗学者）
落合功（歴史経済学者）
徳毛敦洋（宮本常一記念館学芸員）
聞き手 **高梨浩樹**（たばこと塩の博物館 主任学芸員）

第三部 15:00～17:00 塩と生きる人々

岡山県の「ナイカイ塩業」野崎 泰彦氏と石川県珠洲市「角花家」角花洋氏を招き、基調講演をいただく。「入浜式」と「揚浜式」製塩で江戸時代から日本の塩作りを牽引してきた両家。戦争、震災など様々な苦難や時代の転換点を経てもなお、塩を作り続ける両家が歩んできた道のりと、未来への展望を語っていただく。



ゲスト **野崎泰彦**（ナイカイ塩業 会長）
角花洋（角花家）
聞き手 **高梨浩樹**（たばこと塩の博物館 主任学芸員）
北川フラム（瀬戸内国際芸術祭総合ディレクター）

ゲストプロフィール

神崎宣武 | 1944年、岡山県生まれ。民俗学者。文化審議会委員、（公財）伝統文化活性化国民協会理事、旅の文化研究所所長などを歴任。現在、東京農業大学客員教授、（公財）伊勢文化会議所五十鈴塾塾長、岡山県文化振興審議会委員などをつとめる。岡山県宇佐八幡神社宮司でもある。主著に『「まつり」の食文化』『酒の日本文化』『神主と村の民俗誌』『日本人の原風景』『社をもたない神々』などがある。〔第一部、第二部〕



高梨浩樹 | たばこと塩の博物館 主任学芸員。1968年静岡県三島市生まれ。筑波大学第二学群比較文化学類卒。同大学院環境科学研究科修了。1995年より、たばこと塩の博物館に学芸員として勤務、2015年渋谷から墨田への博物館移転に際して塩常設展示室のリニューアルを担当。専門分野は、塩全般（特に製塩技術史と塩の科学）および生態人類学。論文集『日本塩業の研究』編集委員（2025 年2月～）。〔第一部、第二部、第三部〕



落合功 | 歴史経済学者。1966年神奈川県生まれ。中央大学大学院文学研究科博士後期課程修了。博士（史学）。広島修道大学商学部教授を経て、2015年より青山学院大学経済学部教授。主な著書に『江戸内湾塩業史の研究』（吉川弘文館、1999年）、『地域形成と近世社会』（岩田書院、2006年）『近代塩業と商品流通』（日本経済評論社、2012年）、『「徳川の平和」を考える』（日本経済評論社、2015年）『国益思想の源流』（同成社、2016年）、『近世瀬戸内塩業史の研究』（校倉書房、2010 年）など。）元日本塩業研究会・代表。〔第二部〕



徳毛敦洋 | 宮本常一記念館学芸員。1983年広島県広島市生まれ。2009年広島大学大学院文学研究科修了。日本史学専攻で戦後の社会運動を専門とする。呉市入船山記念館、八幡生涯学習のむら勤務を経て2018年より周防大島文化交流センター勤務。宮本常一、民俗学を担当。企画展「宮本常一、旅と鉄道」などを企画。〔第二部〕



野崎泰彦 | 1829年（文政12年）に倉敷市児島で創業したナイカイ塩業株式会社の代表取締役会長。江戸時代から瀬戸内の塩づくりとともに歩んできた企業であり、現在も塩づくりを主力事業とし、化成品事業・不動産事業も展開している。製塩の技術を現代に受け継ぎながら、安全で安心な塩の安定供給に努めている。196年にわたる塩づくりをいかにして続けてきたのかを語っていただく。〔第三部〕



角花洋 | 角花家。国の重要無形民俗文化財「能登の揚浜式製塩の技術」を継承する珠洲市清水町の角花家。震災で釜家は損壊、海岸の隆起で塩田全体が傾いた。塩の出荷の見込みはなく苦しい日々が続いたが、今年6月、能登半島地震後初めて塩作りを再開した。震災を経て、再び塩作りを続ける今の思いを聞く。〔第三部〕



北川フラム | 瀬戸内国際芸術祭 総合ディレクター。1946年新潟県高田市（現上越市）生まれ。東京芸術大学美術学部卒業（仏教彫刻史）。1982年、株式会社アートフロントギャラリーを設立。主なプロデュースとして、「アントニ・ガウディ展」、「アバルトヘイト否!国際美術展」、「ファーレ立川アートプロジェクト」など。アートによる地域づくりの実践として「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」「瀬戸内国際芸術祭」などの総合ディレクターをつとめる。〔第三部〕



Photo: Mao Yamamoto

夜のプログラム 塩を肴に、 塩を語り合う 大塩会



Photo: Shintaro Miyawaki

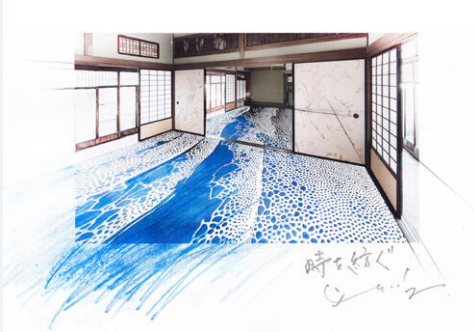
10月5日⑩ 17:30～20:00
会場：ホテルアネシス瀬戸大橋
参加費：5,000円（食べ飲み放題付）
塩サミット登壇ゲストや、地元の方々、全国から集まった塩の関係者と一緒にテーブルを囲み、食事を楽しみながら語り合う宴を開きます。
一般参加：先着40名
申し込み方法：オンラインで事前にチケットを購入ください。



塩サミットと一緒に 「塩アート作品」も楽しもう！

瀬戸内国際芸術祭2025 宇多津エリアでは、塩を使ったアート作品が鑑賞できます。

山本基 「時を紡ぐ」



塩で描かれた無数の泡のような形が連なるインスタレーション。これらの形状は、浜辺に打ち寄せる波、漁網、潮の流れを想起させるとともに、日々の暮らしや記憶が交差するささやかな瞬間を浮かび上がらせる。

シガリット・ランダム 「Capacity」

瀬戸内海に面する美しい宇多津の町の米倉の中で、作家の出身国・イスラエルに接する死海の塩で結晶化された漁網を展示する。

展示場所：宇多津エリア / 古街
10:00～20:00
作品鑑賞パスポート利用可
個別鑑賞料金：500円
作品の詳細は瀬戸内国際芸術祭公式ウェブサイトをご確認ください。



Photo: Yotam From